

☆メジェゴリエ。教皇はよりよい司牧のため大司教を派遣☆

Zenit – Roma, 2017年2月11日

教皇フランシスコは、メジェゴリエに派遣するため教皇庁の特殊使節を任命した。その任務は、当地の司牧的現実を探り、信者たち、なかでも巡礼者たちに何が必要なのかをより深く知ることに限られる。そのように、先週の土曜日、ヴァチカンの國務省が発表した。声明によれば、教皇が任命した特殊使節は、ワルシャワ・プラハ大司教、ポーランド人の **Henryk Hoser** 大司教である。

1981年の7月、メジェゴリエ村の6人の子どもたちが、聖母マリアを見たと主張し、出現はこの後も平和の聖母マリアの呼称で繰り返され、6人以外の人にも出現があった。そのときから、巡礼が始まり、その総数は今では1200万人ほどに上っている。また世界中に祈りの運動や様々な団体が生まれた。

この派遣は、「司牧的性格以外のものではない」と声明は強調する。それゆえ、**Hoser** 大司教は、ワルシャワ・プラハ大司教の職務も平行して勤め、この夏の終わり頃までに任務を全うするように期待されている。

教皇は2015年6月6日にボスニアを訪問されたが、この司牧訪問の際にはメジェゴリエの聖堂の訪問は予定には含まれていなかった。その旅の帰途、飛行機の中で記者からの質問に答えて、ベネディクト16世がカミッロ・ルイーニ枢機卿を首班とする枢機卿と神学者たちから成る委員会を立ち上げたことに言及し、「この委員会はよい仕事をし」最後に報告書をまとめたと言われた。「私たちは結論を出す予定です。それが出たら発表します。今のところは、司教たちに若干の指示を出すにとどめています」と言われた。

これらの聖母の出現に関しては、他の出現のときと同じく、慎重な態度で検討がなされている。そして、モスタルの司教に対しても、聖座に対しても様々な質問がなされているが、今日まで教区も聖座も出現に関して、承認も否認もしていない。

モスタルの近くの人口わずか6千人の村で起こった出来事を、教会がこれまで承認を与えることを妨げている要因の中に、聖母のものとされるメッセージの数の多さと内容の問題がある。

